

【ベナンにおけるラッサ熱の流行】

ベナン保健省によるラッサ熱に関する報告がありましたのでお知らせ致します。

1 ラッサ熱の流行状況

12月7日、保健大臣はラッサ熱の発生についての会見をしました。11月23日、ナイジェリアで働いていた22歳のベナン人女性に、発熱、嘔吐、倦怠感、下痢などの症状がみられました。29日、ベナンに帰り、パラク大学病院に入院し、加療が行われたところ、ラッサ熱が疑われました。12月7日、検査の結果、ラッサ熱と確定診断されました。さらに、この患者と接触した人を調査したところ、新たに3名の疑い例が見つかり、そのうち1名はラッサ熱である可能性が高いとされています。保健局は患者と接触した人の健康状態を監視するなどの対策を取っています。

2 ラッサ熱について

(1) ラッサ熱とは

ラッサウイルスの感染により引き起こされるウイルス性出血熱の1つであり、日本では感染症法の一類感染症に分類されています。ナイジェリアを始めとして西アフリカ一帯に見られます。1969年にナイジェリア北東部のラッサ村で初めて確認されたことに由来します。ナイジェリアでは昨年は約3,000例の発症がありました。ベナンでは2014年、2016年、2017年、2018年の乾期に数例の発症が報告されています。

(2) 感染経路

マストミスというネズミの体内にウイルスが存在します。乾期に野焼きが行われると、ネズミは人里に移動し、ネズミの糞や尿によって貯蔵食品が汚染されることがあります。粉末のマニョック（ガリ）は火を通さず、水と混ぜて食べる習慣があるので、ヒトへの感染源になりやすいとされています。また、ヒトからヒトへ感染は多くはありませんが、患者や遺体の体液（血液や排泄物）が直接接触することにより感染することがあります。医療衛生環境が十分でない所では、院内感染の可能性もあります。

(3) 症状

ラッサウイルスに感染した人の約20%がラッサ熱を発症すると推定されています。入院が必要となる重症例での死亡率は約15~20%とされています。潜伏期間は6日から21日で、多くは発熱や倦怠感で発症し、頭痛、咽頭痛、胸痛、腹痛、嘔吐、下痢などの症状が現れます。重症化すると全身の出血をきたし、死に至ることがあります。

(4) 治療方法

ラッサ熱に対して有効なワクチンはなく、対症療法が行われます。抗ウイルス薬のリバビリンを、発症後早期に投与することで効果があるとされています。

(5) 当館所見

ベナンでのラッサ熱はナイジェリアとの国境地域での風土病と考えられます。しかし、今後、現地の医療機関において多数の院内感染がみられたり、都市部でも発生するような事態になると要注意となります。この機会に、清潔な住宅環境の維持をするなどのネズミ対策を考える必要はあります。また、ラッサ熱の流行が見られる地域において、医療機関を受診する際には、ラッサ熱が疑われている人との接触を避けるよう心がけてください。

国立感染症研究所及び厚生労働省検疫所ホームページもご参照ください。

○参考情報：

国立感染症研究所

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/344-lassa-intro.html>

厚生労働省検疫所

<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name51.html>

(現地大使館連絡先)

○在ベナン日本国大使館

住所：Zone Residentielle de Cotonou sis a Djomehountin, 12eme arrondissement,
COTONOU BENIN

(郵便物宛先：Ambassade du Japon, 08 B.P.283, Tri Postal, Cotonou, Benin)

電話：(市外局番なし) 21-30-59-86

国外からは(国番号 229) 21-30-59-86

F A X：(市外局番なし) 21-30-59-94

国外からは(国番号 229) 21-30-59-94

ホームページ：<http://www.bj.emb-japan.go.jp/j/>